

**国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」と  
朝日放送テレビ「阪神淡路大震災取材映像アーカイブ」が  
検索連携を開始**

朝日放送グループホールディングス株式会社(本社:大阪市福島区、代表取締役社長:沖中 進)は、防災・減災のために広く活用していただきたいと考え、阪神淡路大震災の発生から 25 年を経た 2020 年 1 月より、当グループが取材した映像を常設ウェブサイト「阪神淡路大震災 激震の記録1995 取材映像アーカイブ」( [https://www.asahi.co.jp/hanshin\\_awaji-1995/](https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/) )で公開するなど、グループ CSR 活動の一環として、多様な方法で災害映像の社会還元を進めています。

このたび、国立国会図書館の「東日本大震災アーカイブ『ひなぎく』」( <https://kn.ndl.go.jp/#/> ) にメタデータを提供する形で連携し、「阪神淡路大震災 激震の記録1995 取材映像アーカイブ」のすべての映像を、『ひなぎく』から検索していただけるようになりました。



国立国会図書館の『ひなぎく』は、2011 年の東日本大震災をきっかけに開設された震災記録アーカイブのポータルサイトです。官民さまざまな機関が開設した多数の震災アーカイブを横断検索でき、新潟県中越地震(2004 年)や熊本地震(2016 年)のアーカイブなどとも連携しています。阪神淡路大震災のアーカイブとしては、神戸大学震災文庫、人と防災未来センター資料室に続く3例目。

「阪神淡路大震災 激震の記録1995 取材映像アーカイブ」は、阪神淡路大震災の教訓を後世に伝えるため、およそ 40 時間分2000クリップの取材映像を、取材場所に紐付けて常設のウェブサイトで公開しているものです。公開した映像の時間や数の多さはもとより、被災した人のインタビューや表情を含む震災直後の様子をそのまま公開したのは異例で、学校や地域での防災教育、企業の防災研修などにもご活用いただいています。

このたびの国立国会図書館『ひなぎく』との連携により、より多くの方々に震災映像を有効にご活用いただき、未来の防災・減災が実現することを願っています。

朝日放送グループはこれからも、災害映像は「社会財」とあるという考えに立ち、映像を使った災害教訓の伝承、防災・減災につながる情報の発信に取り組んでまいります。

**朝日放送グループの CSR について** <https://corp.asahi.co.jp/ja/csr/index.html>